

令和8年度滋賀県立高等学校入学者選抜
結果のまとめ

(全日制・定時制・通信制)

滋賀県教育委員会

令和8年度滋賀県立高等学校入学者選抜結果のまとめ

目 次

1	全日制の課程および定時制の課程		
	(1) 高等学校入学者選抜	・・・	1
	(2) 実施校	・・・	1
	(3) 検査実施日・入学許可予定者発表日	・・・	1
	(4) 選考結果	・・・	2
	(5) 出願変更	・・・	4
	(6) 特別な配慮	・・・	5
2	通信制の課程		
	(1) 実施校	・・・	6
	(2) 検査実施日・入学許可予定者発表日	・・・	6
	(3) 選考結果	・・・	6
3	全国募集に係る入学者選抜		
	(1) 実施校	・・・	6
	(2) 検査実施日・入学許可予定者発表日	・・・	6
	(3) 選考結果	・・・	6
4	一次募集における学校独自検査・学力検査		
	(1) 学校独自検査	・・・	7
	(2) 学力検査	・・・	7
	【学力検査の分析】		
	国 語	・・・	8
	数 学	・・・	10
	社 会	・・・	12
	理 科	・・・	14
	英 語	・・・	16

1 全日制の課程および定時制の課程

(1) 高等学校入学者選抜の実施方法

- ・受検者全員に対して、学力検査（5教科）を実施。
- 学校独自型選抜
 - ・学力をみる検査だけでは測れない資質・能力を多面的に評価するもの。
 - ・自己推薦と中学校長推薦の2種類から各高等学校が特色に応じ、選択して実施。
 - ・学校独自検査は、面接、作文、小論文、実技検査、プレゼンテーション等から1つ以上を実施。
- 一般型選抜
 - ・主として志願者の学力を評価するもの。
- 判定（入学許可予定者の決定）
 - ・学校独自型選抜においては、学力検査結果、学校独自検査結果、個人調査報告書等を資料とし、一般型選抜においては、学力検査結果、個人調査報告書等を資料とする。
 - ・学校独自型選抜において、自己推薦と中学校長推薦の両方を実施する場合は、自己推薦から判定。募集人数が充足しなかった場合は、その分を中学校長推薦の募集人数に加えて判定。
 - ・一般型選抜は、募集定員から学校独自型選抜の入学許可予定者を除く人数を一般型選抜の募集人数とし、入学許可予定者を決定。

(2) 実施校

① 一次募集

- ・全ての全日制44校および全ての定時制5校、計49校

② 二次募集

- ・全日制18校および定時制1校、計19校

(全日制44校のうち定員未充足だった27校、および全ての定時制5校、計32校で募集)

【令和7年度入学者選抜の二次選抜】

- ・全日制17校および定時制2校、計19校

(全日制44校のうち定員未充足だった23校、および全ての定時制5校、計28校で募集)

(3) 検査実施日・入学許可予定者発表日

2月 25日 (水)	一次募集	一般型選抜	学力検査		
2月 26日 (木)	一次募集	学校独自型選抜	学校独自検査		
3月 1日 (日)	一次募集	一般型選抜	学力検査	追検査	※1
3月 2日 (月)	一次募集	学校独自型選抜	学校独自検査	追検査	※2
3月 9日 (月)	一次募集	入学許可予定者発表			
3月 16日 (月)	二次募集	検査			
3月 18日 (水)	二次募集	入学許可予定者発表			

※1 県庁で実施 28校58人 ※2 各校で実施 10校17人

(4) 選抜結果

- ・募集定員 9,520 人に対して、入学許可予定者 8,668 人 (-852 人)。 ※全国募集を含む (詳細は6ページ参照)
(令和7年度入学者選抜：募集定員 9,520 人に対して、入学許可予定者 9,022 人 (-498 人))

① 全体の結果

	募集定員	入学許可予定者数	未充足数
全日制	9,240 人	8,512 人	728 人
定時制	280 人	156 人	124 人
合計	9,520 人	8,668 人	852 人

② 選抜別における一次募集および二次募集の結果

	一次募集						二次募集		
	学校独自型選抜			一般型選抜			募集人数	受検者数	入学許可 予定者数
	募集人数	受検者数	入学許可 予定者数	募集人数	受検者数	入学許可 予定者数			
全日制	3,224 人	2,851 人	2,412 人	6,016 人	6,146 人	6,000 人	828 人	101 人	100 人
定時制	12 人	4 人	4 人	268 人	151 人	151 人	125 人	1 人	1 人
合計	3,236 人	2,855 人	2,416 人	6,284 人	6,297 人	6,151 人	953 人	102 人	101 人

③ 学校独自型選抜の結果

- ・一次募集受検者 9,152 人のうち、学校独自型選抜の受検者 2,855 人の占める割合 31.2%
- ・入学許可予定者 8,668 人のうち、学校独自型選抜の入学許可予定者 2,416 人の占める割合 27.9%

	募集人数	受検者数	入学許可予定者数
自己推薦のみ実施6校	284 人	297 人	211 人
中学校長推薦のみ実施27校	1,904 人	1,673 人	1,448 人
両方を実施12校	1,048 人	885 人	757 人
合計	3,236 人	2,855 人	2,416 人

④ 学科別の結果（全体）

	学科名	募集定員 (人)	受検者数 (人)	入学許可 予定者数 (人)	未充足数 (人)		定員充足率 (%)	
						[R7]		[R7]
全日制	普通	5,960	6,161	5,482	478	[189]	92.0	[96.0]
	森の探究	40	23	23	17	[23]	57.5	[42.5]
	みらい共創	40	※	21	19	[3]	52.5	[92.5]
	農業	400	386	378	22	[8]	94.5	[98.0]
	工業	720	701	701	19	[37]	97.4	[87.9]
	商業	520	539	514	6	[1]	98.8	[99.8]
	家庭	80	77	80	0	[0]	100.0	[100.0]
	理数	80	※	80	0	[0]	100.0	[100.0]
	体育	40	※	40	0	[0]	100.0	[100.0]
	音楽	40	25	25	15	[13]	62.5	[67.5]
	美術	40	31	31	9	[0]	77.5	[100.0]
	文理探究	40	※	33	7	[6]	82.5	[85.0]
	総合	1,240	1,155	1,104	136	[75]	89.0	[91.9]
小計	9,240	9,098	8,512	728	[355]	92.1	[96.2]	
定時制	普通	160	110	110	50	[54]	68.8	[66.3]
	工業	80	26	26	54	[60]	32.5	[25.0]
	総合	40	20	20	20	[29]	50.0	[27.5]
	小計	280	156	156	124	[143]	55.7	[48.9]
合計	9,520	9,254	8,668	852	[498]	91.1	[94.8]	

※ みらい共創科、理数学科、体育学科、文理探究学科は普通科との学校出願のため、受検者数は記載せず、普通科の受検者数に含む。
学校出願とは、該当高等学校に設置する2つの学科（科）を区別せずに出願すること。

【参考】 高等学校における学科区分

学科区分	大学科	小学科
普通教育を主とする学科	普通科	—
	森の探究科	—
	みらい共創科	—
専門学科	農業学科	農業科、食品科、園芸科、花緑科、花緑デザイン科
	工業学科	機械科、電気科、化学工業科、建設科、環境化学科
	商業学科	総合ビジネス科、情報システム科、商業科、 国際経済科、情報処理科
	家庭学科	家庭科学科
	理数学科	理数科
	体育学科	体育科
	音楽学科	音楽科
	美術学科	美術科
	文理探究学科	文理探究科
総合学科	総合学科	—

⑤ 学校出願

		普通	みらい 共創	普通	理数	普通	体育	普通	文理探究	
一次募集	確定募集人数	89人	33人	493人	72人	208人	4人	150人	37人	
	受検者数	普通	93人	-	465人	-	394人	-	143人	-
		専門	-	3人	-	5人	-	28人	-	5人
		両方	18人		140人		26人		26人	
入学許可予定者数		62人	14人	412人	70人	208人	4人	133人	28人	
二次募集	募集人数	27人	19人	81人	2人	-	-	17人	9人	
	受検者数	普通	0人	-	23人	-	-	-	1人	-
		専門	-	0人	-	1人	-	-	-	0人
		両方	0人		7人		-		2人	
入学許可予定者数		-	-	28人	2人	-	-	1人	2人	

(5) 出願変更

- ・ 出願者数 11,446 人
- ・ 出願変更者数 ※ 2,392 人 (私立専願者の辞退 1,954 人を含む。)

※ 学校独自型選抜と一般型選抜を併願している者は、重複して計上している。

(6) 特別な配慮

- ・障害のある生徒や海外帰国生徒等、配慮が必要な者に対して、高等学校と中学校が個々の状況に応じて協議し、特別な配慮を実施。

① 一次募集（学力検査および学校独自検査）において、特別な配慮を必要とした受検者 193 人

	実施した主な配慮内容
視覚障害	問題用紙等の拡大、拡大鏡の使用
聴覚障害	座席の配慮、視覚的提示、 補聴器・ワイヤレス補聴援助システム（ロジャー）の使用
学習障害（LD） 注意欠陥多動性障害（ADHD）	時間延長、問題用紙等のルビ振り、 ICT 機器の持込み（読み上げ機能使用）
学習支援	時間延長、問題用紙等のルビ振り、ICT 機器の持込み
病気	ハンドタオル・手袋・薬・水・補食・吸引器等の持込みと使用、 ICT 機器の持込み
海外帰国生徒等	問題用紙等のルビ振り、時間延長、辞書の使用
けが等	松葉杖・車いすの持込みと使用
発熱・体調不良等	特別検査場での受検

② 一次募集（学力検査および学校独自検査）において、急な発熱や感染症等により追検査を受検した者 62 人

- ・学力検査のみ追検査を受検した者 45 人
- ・学校独自検査のみ追検査を受検した者 4 人
- ・両方とも追検査を受検した者 13 人

③ 二次募集において、特別な配慮を必要とした受検者 0 人

2 通信制の課程

(1) 実施校

- ・大津清陵高等学校通信部の1校

(2) 検査実施日・入学許可予定者発表日

3月5日(木)～3月9日(月)	一次募集期間
3月12日(木)	一次募集 入学許可予定者発表
3月15日(日)～3月18日(水)	二次募集期間
3月19日(木)	二次募集 入学許可予定者発表

(3) 選抜結果

① 全体の結果

	募集定員	入学許可予定者数	未充足数
通信制	320人	217人	103人

② 一次募集および二次募集の結果

	一次募集		二次募集		
	出願者数	入学許可 予定者数	募集人数	出願者数	入学許可 予定者数
通信制	168人	168人	152人	49人	49人

3 全国募集に係る入学者選抜

(1) 実施校

- ・信楽高等学校、伊香高等学校、虎姫高等学校の3校

(2) 検査実施日・入学許可予定者発表日

- ・信楽高等学校、伊香高等学校
 - 1月31日(土) 学校独自検査
 - 2月5日(木) 入学許可予定者発表
- ・虎姫高等学校
 - 2月25日(水) 学力検査
 - 2月26日(木) 学校独自検査
 - 3月9日(月) 入学許可予定者発表

(3) 選抜結果

	募集学科	募集人数	受検者数	入学許可予定者数
信楽高等学校	総合学科	5人以内	1人	1人
伊香高等学校	森の探究科	5人以内	2人	2人
虎姫高等学校	普通科(国際バカロレア枠)	5人以内	0人	-

4 一次募集における学校独自検査・学力検査

(1) 学校独自検査

① 実施校数

- ・全ての全日制44校と、定時制5校のうち1校で学校独自検査を実施
 - 自己推薦のみ実施 全日制6校
 - 中学校長推薦のみ実施 全日制26校、定時制1校
 - 両方を実施 全日制12校

② 検査内容

	面接	作文	小論文	実技検査	プレゼンテーション等
自己推薦	10校	2校	4校	6校	2校
中学校長推薦	30校	11校	5校	3校	2校

(2) 学力検査

① 出題の方針

- ・問題の作成に当たっては、中学校学習指導要領に示された内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、単なる知識量をみるのではなく、思考力・判断力・表現力を問う設問や自らの言葉で表現する記述式の設問などの工夫を凝らした。

	教科の方針
国語	様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみることをねらいとした。
数学	数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現・処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみることをねらいとした。
社会	地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみることをねらいとした。
理科	身の回りの事物・現象を調べる観察、実験や調べ学習を通して、自然の仕組みやはたらきについて知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみることをねらいとした。
英語	英語を聞くことや読むことを通して、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら、考えなどを形成する力などのコミュニケーション能力をみることをねらいとした。

② 配点等

- ・配点
 - 各教科100点満点を標準とし、5教科で500点満点とした。
- ・教科の配点に比重をかけた学校・学科
 - 膳所高等学校理数学科および米原高等学校理数学科で、数学と理科の配点を120点満点とした。
 - 伊吹高等学校普通科で、国語と社会の配点を120点満点とした。

③ 平均点

	国語	数学	社会	理科	英語
R8選抜	44.3点	34.6点	43.9点	47.0点	35.1点
R7選抜	57.7点	45.4点	45.9点	41.1点	43.1点

国 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（国語）に示された内容に基づき、言葉を正確に理解し適切に表現する基礎的な力をみるようにした。また、様々な種類の文章などを素材にして、論理的に思考する力、豊かに想像する力、言語感覚などをみるようにした。

2 解答の分析

全体を通して、基礎的・基本的な知識を問う問題や、本文内容に関する選択肢問題は、一定の正答率は保たれているが、全体的な分量の多さも相まって、選択肢問題等で十分に選べていないと思われる誤答も多かった。論理の展開を的確にとらえて文章の内容を理解し表現する力を問う記述問題や、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈して対比的に表現する記述問題の正答率が低かった。文章を読み解くにあたり、全体を広く捉えたり細部に注目したりすることを連続的に行える柔軟な視野を持つことや、具体的な内容と抽象的な内容を関連付けながらイメージできる力を向上させることなどが望まれる。

□は、動物のしっぽについて書かれた文章を素材にして、文脈の中における語句の意味を的確にとらえる力、文章の展開を的確にとらえて内容を解釈する力、必要な情報を整理し、文章の要旨を把握して適切に表現する力をみる問題であった。

文章内容について選択肢で問う問題については正答率は概ね高かったが、文章の展開を的確にとらえて文章の内容を理解し表現する力を問う記述問題の正答率は低かった。文章の中心的な部分と付加的な部分の関係や、事実と意見との関係などを正確にとらえたり、文章全体の展開を踏まえて筆者の意図を的確に把握して表現したりするような学習が望まれる。

□は、記憶の仕組みについて書かれた文章を素材にして、文脈における語句の意味を的確にとらえる力、論理の展開に即して内容を把握したり解釈したりする力、根拠の適切さを考えて具体例を示し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫して表現する力をみる問題であった。

文脈における語句の意味を的確にとらえる力をみる問題や、論理の展開に即して内容を把握したり解釈したりする力をみる問題の正答率が低かった。要求されていることを正しく把握するとともに、広い視野で文章を捉えたり、目的や情報に応じて必要な説明や具体例を加えて内容が適切に伝わるように工夫して文章を書いたりする学習が望まれる。

□は、文脈に即して漢字を正しく書いたり読んだりする力、敬語や単語の識別に関する知識、古典を理解する基礎的な力をみる問題であった。

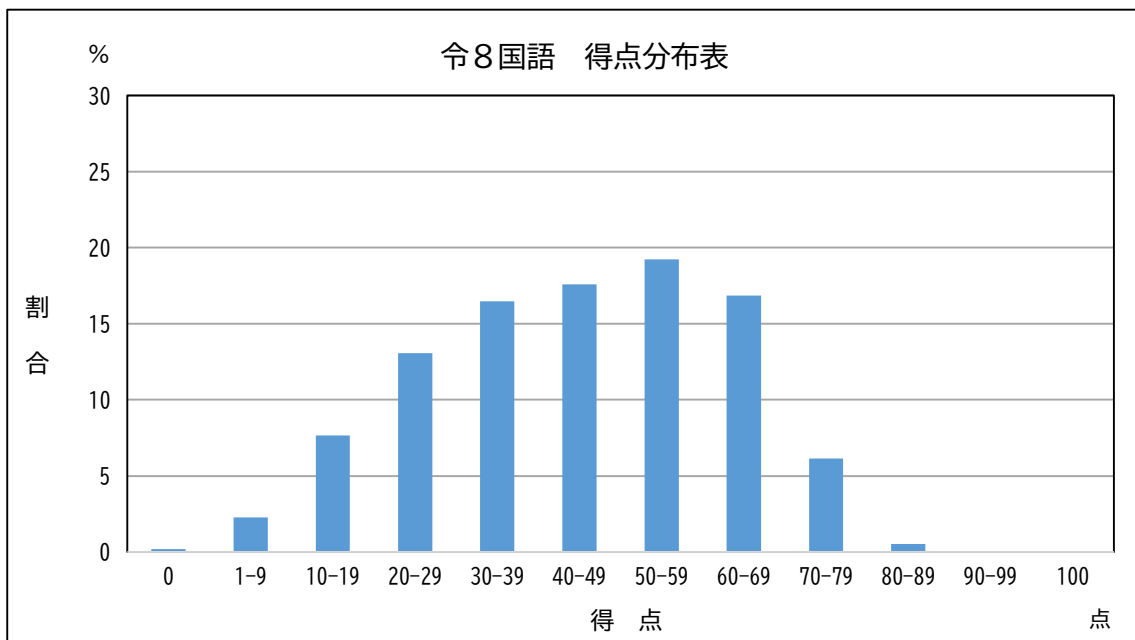
漢字や単語の識別に関する知識をもとに解答する問題の正答率が低かった。学習した知識を日頃から積極的に活用するとともに、伝統的な言語文化について幅広く学習することが望まれる。

国 語

問題区分		正答率 (%)	
一	1	60.0	
	2	63.4	
	3	29.9	
	4	31.8	
	5	5.3	
二	1	25.5	
	2	(1)	9.9
		(2)	3.0
	3	53.3	
4	24.2		

問題区分		正答率 (%)	
三	1	①	50.0
		②	51.3
		③	71.7
		④	61.8
		⑤	76.7
	2	①	94.9
		②	43.7
		③	54.7
		④	51.0
		⑤	48.7
	3	①	75.2
		②	22.2
	4	①	29.8
		②	58.2
		③	64.5

平均点	標準偏差
44.3	18.1



数 学

1 出題方針

中学校学習指導要領（数学）に定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、数学的な見方や考え方をみるようにした。また、数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則についての理解をみるとともに、見通しをもって数学的に表現・処理する力や、事象を数理的に考察し表現する力をみるようにした。

2 解答の分析

全体として、数や式の計算、方程式等の基礎的・基本的な事項や概念については、概ね理解できている。一方で、基礎的・基本的な数と式の計算や図形の性質に関する知識・技能が身に付いていない受検者も見られた。また、題意を正確に読み取り、論理的に考察し、数学的に表現・処理する問題になると正答率が大幅に下がった。基礎的・基本的な知識および技能を身に付けるだけでなく、論理的に考察し、数学的な表現を用いて筋道立てて説明する活動や、観察や実験などにより、数や図形の性質を見だし、見いだした性質を発展させるような活動を通して知識および技能を相互に関連付けて体系的に学ばせることにより、題意を正確に読み取り数学的に表現する力や、習得した知識を活用する思考力・判断力・表現力等を育成することが望まれる。

①は、中学校3年間で学ぶ基礎的・基本的な知識および技能を問う問題を幅広く出題した。比較的に正答率が高く、基礎的・基本的な事項や概念については、おおむね理解できている。ただし、基礎的な内容を問う問題であっても、五角形の外角の大きさを求める問題や、箱ひげ図を正しく読み取る問題については正答率が下がる。基礎的・基本的な知識および技能の確実な定着が望まれる。

②は、長方形を折ってできる図形に着目し、合同な図形の性質や三平方の定理などの図形の性質を基にして、見通しをもって論理的に考察し表現する力をみる問題であった。図形の性質を用いて、数学的に表現する問題の正答率が低く、図形の性質について暗記するだけでなく、論理的に考察し表現する力を育成することが望まれる。

③は、反比例のグラフについて、変化の割合やグラフに関する基本的な知識の理解をみる問題や、与えられた条件を基に、伴って変わる二つの数量の変化や対応の特徴を見いだす力をみる問題であった。基礎的・基本的な知識を問う問題についても正答率が低く、関数の式やグラフの意味など、関数についての基礎的・基本的な知識および技能の定着が望まれる。

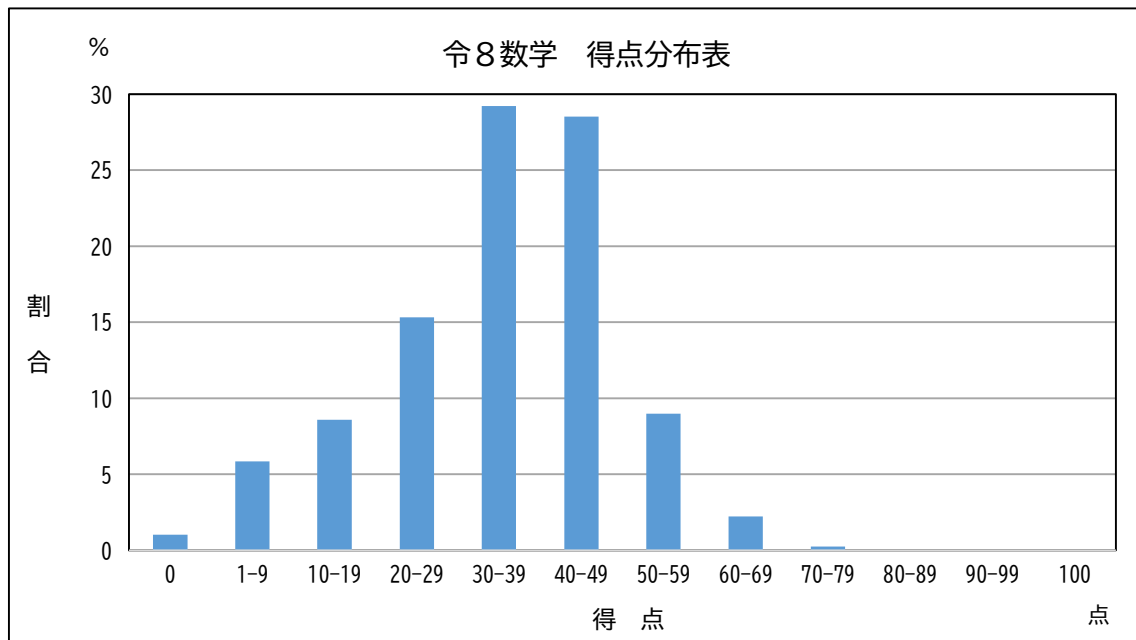
④は、直方体などの空間図形を題材に、空間図形の性質や球の体積についての理解をみるとともに、方程式を用いて数理的に考察し表現する力や、与えられた条件を基に、事象を数学化し、図形の性質を活用しながら、規則性に気付き、論理的に考察する力をみる問題であった。条件を基に、数理的に表現したり、論理的に考察したりする必要がある問題の正答率が低く、粘り強く考察し、数学的に表現・処理する力の育成が望まれる。

数 学

問題区分		正答率 (%)
1	(1)	86.5
	(2)	83.7
	(3)	59.1
	(4)	76.9
	(5)	72.1
	(6)	69.2
	(7)	56.4
	(8)	63.8
	(9)	21.6

問題区分		正答率 (%)
2	(1)	44.3
	(2) 証明	2.7
	(3) 作図	0.0
	(4)	0.1
3	(1)	39.6
	(2)	7.6
	(3)	14.3
	(4)	0.0
4	(1)	38.5
	(2)	12.3
	(3)	0.3
	(4)	0.4

平均点	標準偏差
34.6	14.2



社 会

1 出題方針

中学校学習指導要領（社会）に定められた内容に基づき、地理、歴史、公民の三分野について、基礎的・基本的な知識、概念や技術の習得をみるようにした。また、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して、多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみるようにした。

2 解答の分析

全体的に、知識や概念を組み合わせることで正答を導いたり、資料から適切な情報を取り出したりして、多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみる問題の正答率が低く、これらの力が十分に身に付いていないと考えられる。図表やグラフから解答に必要な情報を正確に読み取り情報を取捨選択する力や、読み取った情報と蓄積した知識から判断し表現する力の育成が必要である。社会科の学習においては、引き続き、基礎的・基本的な知識および技能を正確に身に付けたうえで、社会的な見方・考え方をはたらかせ、社会的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する力など「読み解く力」を育成することが望まれる。

①は、グラフや地図などの資料をもとに、世界や日本の地域的特色についての理解をみるとともに、各地域の産業の特色について、さまざまな資料から多面的・多角的に考察し判断する力や、適切に表現する力をみる出題とした。複数の資料から読み取れることと、地理的事象を結び付け、論理的に判断する力や、資料から適切な情報を取り出し、地理的な見方・考え方をはたらかせて、論理的に考察し表現する力を育成することが望まれる。

②は、グラフや略年表などの資料をもとに、原始・古代から現代に至る各時代の政治、経済、文化についての理解をみるとともに、第一次世界大戦後の国際情勢と日本の動きについて、考察し判断する力や、適切に表現する力をみる出題とした。知識の習得とともに、歴史的な見方・考え方をはたらかせて、論理的に考察し表現する力を育成することが望まれる。

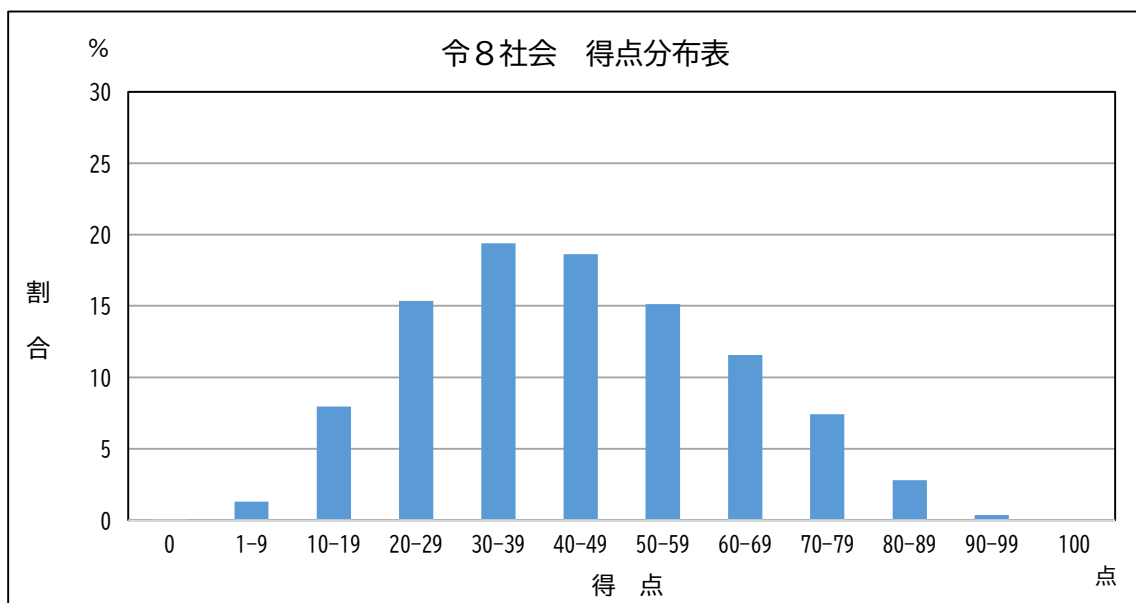
③は、図やグラフなどの資料をもとに、現代社会における政治や経済についての理解をみるとともに、持続可能な社会の形成に向けた取組について、考察し判断する力や、適切に表現する力をみる出題とした。日頃から身近な地域や日常生活と関連付けながら、現代社会の課題に関心をもち、現代社会の見方・考え方をはたらかせて、考察し表現する力を育成することが望まれる。

社 会

問題区分			正答率 (%)
1	1	(1)	53.5
		(2)	33.0
		(3)	33.3
		(4)	58.8
	2	(1)	39.9
		(2)	45.6
	3	(1)	51.9
		(2)	14.6

問題区分			正答率 (%)
2	1		83.5
	2		40.2
	3		53.1
	4		23.4
	5		18.6
	6		50.4
	7		26.7
	8		37.4
	9	資料5	22.1
		資料6	24.1
	10		7.0
11		23.9	
3	1	(1)	57.0
		(2)	49.3
	2	(1)	56.4
		(2)	73.4
	3	(1)	59.7
		(2)	39.9
	4	(1)	56.2
		(2)	57.7

平均点	標準偏差
43.9	18.9



理 科

1 出題方針

中学校学習指導要領（理科）により定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえ、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な知識と技能をみるようにした。また、身の回りの事物・現象を調べる観察、実験や調べ学習を通して、自然の仕組みやはたらきについて、知識・技能を活用して、原理を説明し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力をみるようにした。

2 解答の分析

物理、化学、生物、地学、の各分野において、基本的な知識や理解を問う問題や、自然の仕組みや現象について理解を問う問題については正答率が高く、科学的な事象に関する基本的な知識は定着していると考えられる。一方で、実験や観察の結果から、科学的に考察し、それを論理的に説明することを求める問題では正答率が低かった。自然の事物や現象を、比較しながら課題を見だし、科学的根拠に基づいて、文章で表現する力が必要である。

①は、炭酸水素ナトリウムの性質を調べる実験を通して、化学変化や物質による性質の違いに関する理解をみる問題であった。実験操作の手法に関する知識をみる問題については正答率が高かった。水溶液の性質を問う問題や実験結果を考察し化学変化を説明する問題では正答率が低かった。物質の性質や化学変化について理解し、規則性を見だし、表現する力の育成が望まれる。

②は、岩石や地層の観察と調べ学習を通して、地層の特徴についての理解をみる問題であった。資料を読み取り、地層が堆積した当時の様子を考察する問題は正答率が高かった。一方、柱状図から、地層の傾きや深さを考察する問題は正答率が低かった。観察や調べ学習の結果について、科学的に考察し、表現する力の育成が望まれる。

③は、植物の観察と実験を通して、植物のつくりとはたらきについての理解をみる問題であった。植物のつくりに関する基本的な問題は正答率が高かった。一方、実験結果より蒸散量を計算する問題では正答率が低かった。実験結果より、規則性や課題を見だし、自然の事物・事象を科学的に考察する力の育成が望まれる。

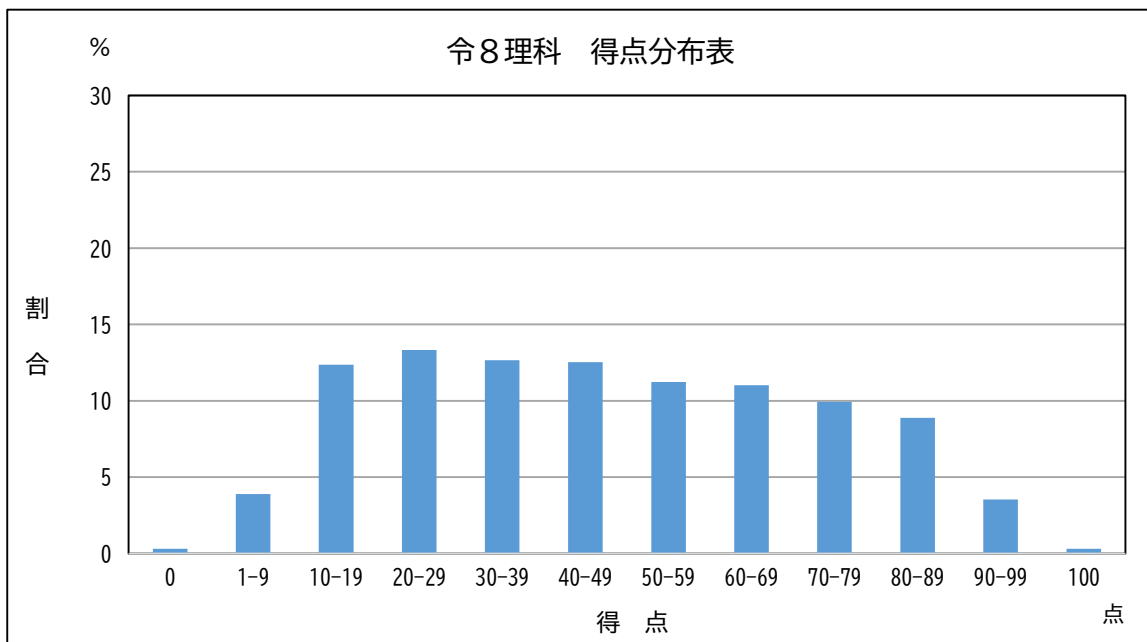
④は、電流のはたらきを調べる実験を通して、電流や電圧の規則性についての理解をみる問題であった。回路に流れる電流に関する基本的な知識をみる問題については正答率が高かった。一方、電球の明るさの比較や水温上昇について説明する問題では正答率が低かった。実験結果を分析し、現象における原理や規則性について、科学的に考察し説明できる力の育成が望まれる。

理 科

問題区分		正答率 (%)	
1	1	75.8	
	2	52.1	
	3	記号	51.9
		語句	50.7
	4	41.5	
5	29.2		
2	1	37.9	
	2	42.8	
	3	(1)	31.7
		(2)	44.3
	4	記号	49.8
理由		18.1	

問題区分		正答率 (%)	
3	1	(1)	66.5
		(2)	77.8
	2	60.4	
	3	47.5	
	4	58.3	
4	5	31.0	
	1	70.6	
	2	55.0	
	3	4.3	
	4	34.1	
5	22.7		

平均点	標準偏差
47.0	25.0



英 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（外国語）に示された内容に基づき、英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、簡単な情報や考えなどを理解したり、表現したりする力をみるようにした。また、英語を聞くことや読むことを通して、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら、考えなどを形成する力などのコミュニケーション能力をみるようにした。

2 解答の分析

全体として、答えとなる内容が英文内に明示的に示されている問いについては正答率が高かった。基本的な内容を読んだり聞いたりして、必要な情報を捉える力が身に付いており、中学校の授業における知識・技能面での指導の成果が伺える結果であった。一方で、複数の情報を組み合わせて処理したり、英文の要点を把握したりする問いや、自分の考えを英語で述べる問いについては正答率が低かった。日頃より、他人の考えや様々な情報などをふまえて、自分の考えや意見を英語で論理的に伝えるような学習が行われることが望まれる。

①の聞き取り問題では、短い英文の中で答えとなる内容が明示的に示されている問いの正答率は高く、英文の中から自分が必要な情報を聞き取ることは概ねできている。一方で、複数の情報を整理したうえで答えを導き出す問いや、聞き取った内容を英語で記述する問いは正答率が低かった。情報を抜き出すだけでなく、要点を理解したり、聞いた内容をもとに自分の考えを表現したりする言語活動の充実が望まれる。

②は、ゴミとゴミ箱についての複数人の意見を整理しながら英文を読み、精査した情報をもとに自分の意見を形成し、英語で表現する問題であった。英文の内容と視覚的情報を適切に結び付け、本文の内容を表したグラフを選ぶ問題は比較的正答率が高かった。一方で、複数の意見を整理し、文脈を適切に理解した上で回答する問題は正答率が低かった。読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解していく言語活動の充実が望まれる。

③は、「先生の話」と「先生の話聞いた生徒のスピーチ」を読んで、話の概要を捉えたり、読んだ内容について英語で表現したりする問題であった。話の流れを示したスライドを選ぶ問題は正答率が高く、逐語的な読みから脱却し、話の概要を適切に捉えることが概ねできている。一方で、話の内容を英語で表現する問題では、言語のはたらきに注意しながら要点をまとめる必要があり、正答率が低かった。基本的な言語知識や技能を実際のコミュニケーションの場面で活用する機会となる言語活動の充実が望まれる。

④は、自分の住んでいる地域の魅力を留学生に伝えるという場面において、3つの条件をもとに伝える内容を整理し、自分の考えや理由についてまとまりのある英文を書く問いであった。正答率は低く、日常的な話題について、自分の考えを論理的に表現する言語活動の充実が望まれる。

英 語

問題区分		正答率 (%)	
1	その1	1	96.3
		2	60.5
		3	53.1
	その2	①	19.9
		②	2.9
	その3	1	47.4
		2	54.3
		3	44.5
		4	4.0
	2	1	36.8
2		53.2	
3		45.8	
4		14.3	
5		37.8	
6		49.0	
7		8.7	

問題区分		正答率 (%)
3	1	72.1
	2	37.5
	3	12.3
	4	51.9
	5	5.0
	6	31.2
	7	3.5
	8	28.2
4		4.0

平均点	標準偏差
35.1	17.9

